「時の記念日100周年」など記念局でアピール

「電波研クラブ」滝澤修代表 寄稿

国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）等に勤務する無線愛好家のサークル「電波研クラブ」（JF3CGN滝澤修代表）は、標準電波JJYの発射が始まって80年なることと、「時の記念日」が制定されて100年になることを合わせて記念するアマ無線局「8J0JY」を、昨年10月から運用している。それに加えて、「電波三法」（電波法、放送法、電波監理委員会設置法）が施行されて70年になることを記念する「8J3DENPA」も今年4月から運用している。滝澤代表の寄稿を紹介しよう。

検見川（逓信省）1940年〜
小金井市緑町 1949年〜
FREQUENCY STANDARD DIVISION
RADIO RESEARCH LABORATORIES
STATION JJY
時の記念日（6月10日）制定100周年
標準電波JJY開局80周年
8J0JY
（写真提供：NICT）
名崎（NTT）1977年〜
おおたかどや山 1999年〜
はがね山 2001年〜

8J0JYのQSLカード

電波の日における8J3DENPAの運用（6月1日、NICT本部）

「時の記念日」における8J0JYの運用（6月10日、NICT本部）

「時の記念日」は、今から1350年前の671年6月10日に、天智天皇が近江京（現在の滋賀県大津市）において、「漏刻」と呼ばれる水時計を用いて初めて時刻を知らせた故事に基づき、1920年に制定された。毎年6月10日の前後には、時間を守る生活の重要性を啓発する活動等が行われている。

今年は、国立科学博物館（東京・上野公園）において、「時」展覧会2020が7月12日まで開催されており（入場予約制）、NICTは原子時計等の展示協力を行っている。6月は祝日が無い月であることから、「時の記念日」を国民の祝日にする運動も行われている。

電波研クラブは、電波三法の施行70周年記念日である6月1日（電波の日）と、「時の記念日」100周年である6月10日を含む2週間を、両記念局の集中運用期間に定め、情報通信月間参加行事として、NICT本部（東京都小金井市）等から交信サービスを行った＝**写真**＝。

両記念局の集中運用は、電波研クラブに所属するNICTの職員3人が輪番で担当した。交代で運用することによってオペレータ同士の接触を減らしたほか、マスクを着用して音声を使わず電信（モールス符号）による交信を取り入れるなどの、アマ無線ならではの感染防止策を講じた。

集中運用期間に、両記念局合わせて371局との交信を達成したほか、期間の最初の週末に実施された世界規模の無線コンテスト（CQ World－Wide WPX）では、米国など海外のアマ無線局との交信を行い、全世界に「電波三法施行70周年」と「時の記念日100周年」をアピールした。

遠隔地の無線局を相手に交信するアマ無線は、在宅で全世界とつながることが可能なため、ステイホームの時代にマッチした活動として、再評価されている。インターネットやSNSが普及するよりもはるか昔から存在したアマ無線は、電波を使ったネットワーク技術であり、いわばオンライン活動の元祖といえる。

今回の両記念局の交信サービスは、情報通信月間にふさわしい記念の意義を広く伝えるとともに、人の集まる行事に制約がある社会状況において、在宅の無線家を応援し、新しい生活様式におけるアマ無線の魅力を示す、有意義な取り組みになったといえよう。

7コールアマ無線クラブ記念局「8J1－7CALL」

4月度交信2373QSOと発表

7コールアマチュア無線クラブ（7M4VQJ 山口諭代表理事）は、7コール発給開始30周年記念局「8J1－7CALL」（エイトジェイワン・セブンシーエル）の開局1ヵ月となった4月度（4月23日〜5月22日）の交信実績を計2373QSOと発表した。

この記念局は、同クラブが開設する社団法人（呼出符号：JS1YEY、常設場所：東京都墨田区）の変更により実現。1990年4月23日に『7』で始まるコールサイン（通称『7コール』）の発給が始まってから、ちょうど30周年の年にあたる2020年4月23日開局した。

7コール発給開始30周年記念事業は、一般財団法人日本アマチュア無線振興協会（JARD）が後援し、同クラブは関東総合通信局に事業の広告塔となる記念局の開設を申請。7コールは、日本のアマチュア無線最盛期を象徴するコールサイン。1990年4月から2003年6月までの13年2ヵ月間に理論上25万8272通りのコールサインが発給されたが、2019年末現在の7コール生存率は、わずか6・81％となっている。

7コール発給開始30周年記念局「8J1－7CALL」は、2020年4月23日から2021年4月22日までの1年間、1エリアのアマチュア局であること、7コールに関する記念局であることから、その意義を強調するため、広報上「8J1－7CALL」と統一して表記している。

この記念局は、アマチュア無線界の振興を促進（にぎわい感の創出）するとともに、7コール発給開始30周年の広報も兼ねる。5月16日よりオペレータが増え16名体制となり、更なるオペレータを準備中で、引き続きアクティブに運用していく。

アマチュア無線機器を牽引する主力メーカー最新情報

注目の「IC－705」販売開始

ハムの楽しみとアクティビティ

アイコム

製品ピックアップ
HF+50MHz+144MHz+430MHz
<SSB/CW/RTTY/AM/FM/DV>10Wトランシーバー
IC-705
HF~430MHzオールバンド、
DVを含むオールモードに対応。
詳細はこちら ›

HFから430MHz帯をDV（デジタルボイス）を含むオールモードでカバーするポータブルトランシーバー「IC－705」

マルチバッグLC－192（オプション）

アマチュア無線の楽しみとアクティビティを、より一層高める製品として、発売前から注目を集めていたアイコムの「IC－705」（希望小売価格12万4800円＋税）が、販売を開始した。

同製品は、HFから430MHzオールバンド、DV（デジタルボイス）を含むオールモードに対応。多彩なバンドをSSB、CW、RTTY、AM、FMに加えD－STAR®のDVモードで楽しむことができる。

さらに、RFダイレクト・サンプリング方式を採用。アナログ信号の処理過程においてミキサーで起こるような非線形歪みの発生がなく、極めて優れたフェーズノイズ特性を達成するとともに、クラスで初めて高速／高解像度を誇るリアルタイムスペクトラムスコープとウォーターフォールを実現した。高い評価を得ている「IC－7300」や「IC－9700」のスコープの性能と機能をそのまま継承しており、目で見てバンドコンディションを把握したり、空き周波数を確認したりと、従来のフィールド運用の域を超えた高度なオペレーションを可能にする。

また、「IC－7300」や「IC－9700」と同じサイズとなる4・3インチの大型カラーディスプレイを採用した。タッチ操作で直感的に各種項目を設定することができ、フィールドでの視認性、操作性が飛躍的に向上した。

このほか、軽量&コンパクトを実現した。固定機に迫る性能と機能を、幅約20㌢、高さ8・35㌢、奥行き8・2㌢に収め、重さ約1・1㌔㌘（付属バッテリー含む）と、片手で持てるサイズと軽さを実現。付属のリチウムイオンバッテリー（BP－272）で約3時間半の運用が可能。最大出力5W、外部電源（13・8V時）で最大出力10W。

WLAN／Bluetooth®無線技術による接続に対応したほか、GPSアンテナ、カスタマイズボタンを備えたスピーカーマイク（HM－243）、microUSBコネクター、microSDカードスロットも装備した。受信は30kHzから144MHz帯までを連続カバーし、FM放送やエアバンドなども楽しむことができる。

もちろん、JARL（日本アマチュア無線連盟）が推奨するアマチュア無線のためのデジタル通信D－STAR®のDV（デジタルボイス）モードにも対応。ターミナルモード／アクセスポイントモードをはじめとしたD－STAR®の機能を装備した。

同製品には、移動、フィールド運用に最適なマルチバッグLC－192（オプション）も用意している。すっきりと収納できるだけでなく、アンテナの装着、同軸やマイクケーブルを通すホールなど、多彩な機能を備えており、バックに入れたまま運用できる仕様となっている。

磨きあげたTS－x90シリーズ

DX，erの実戦運用に応える

JVCケンウッド

KENWOOD
TS-890
7.005.000
7.007.000
KENWOOD
TS-990
7.100.000
14.200.000

㊤TS－890㊦TS－990

JVCケンウッドは、ケンウッドブランドによるHF帯アマチュア無線機をラインアップし、アマチュア無線家に提供している。一つは、HF帯アマチュア無線機のフラッグシップモデル『TS－990』で、トップクラスのDX，erをターゲットとしたHFトランシーバーの最高峰。二つに、DX，erの実戦運用に応えるHF／50MHzトランシーバー『TS－890』。そして三つ目は、普及価格帯クラスの実戦機『TS－590』。

同社は、HF帯アマチュア無線市場において、トップクラスのDX，erをターゲットとするフラッグシップ機『TS－990』シリーズと、入門者からDX，erまで幅広いユーザーを対象とする『TS－590』シリーズを展開。『TS－990』は、デュアルレシーバーの搭載やプルダウンコンバージョン構成などによるシリーズ最高の受信機能を備えた最高級モデルとして、また、『TS－590G』は高パフォーマンスの普及価格帯モデルとして、これまで培ってきた独自の無線技術を投入し、高い評価を得ている。

一方、注目の『TS－890』シリーズは、『TS－990』に搭載した数々の技術を継承させ、同機に次ぐハイエンドモデルとして企画・開発。DX，erの実戦運用に応えるハイエンドトランシーバーとして提案している。同機の受信部にはこれまでと同様のダウンコンバージョン方式を採用し、かつ狭帯域ルーフィングフィルターを搭載することで、優れた近接妨害信号排除機能を実現した。

さらに、新開発の優れたフェーズノイズ特性を持つローカルオシレータを組合せることで、三次相互変調ダイナミックレンジ特性（110デシベル）だけでなく、レシプロカルミキシングダイナミックレンジ特性（114デシベル）、及びブロッキングダイナミックレンジ特性（150デシベル）も実現。また、送信部の安定出力・静隠性・高速動作や、直感的に操作できるパネルレイアウトなど、快適な運用も徹底的に追求した。

ICOM
IC-705、始動。
HF〜430MHzオールバンド、
DVを含むオールモードに対応。

Made in Japan
本当の品質を日本から

- HF+50MHz+144MHz+430MHzをオールモードでカバー
- RFダイレクト・サンプリング方式を採用
- リアルタイムスペクトラムスコープ&ウォーターフォール表示を実現
- タッチ操作対応の大型カラーディスプレイを搭載
- 軽量&コンパクトボディ
- リチウムイオンバッテリー（BP-272）、外部電源（13.8V）の使用が可能
- WLAN/Bluetooth®無線技術による接続に対応
- D-STAR®の機能が充実

【その他の機能】
●カスタマイズボタンを備えたスピーカーマイクが付属
●GPSアンテナ、GPSロガーを搭載
●microSDカードスロットを装備
●micro USB端子を装備　他

HF+50MHz+144MHz+430MHz
<SSB/CW/RTTY/AM/FM/DV>10Wトランシーバー
IC-705
希望小売価格 124,800円+税
4 アマ免許　技適取得
リチウムイオンバッテリーパック<BP-272>、
スピーカーマイク<HM-243>、
DC電源ケーブル<OPC-2421>　付属

Be Active!
IC-705と共に、フィールドへ。
※アンテナ、クリップベースは市販品です。

IC-705専用のマルチバッグ<LC-192>で、
フィールド運用を、より楽しく、スマートに。
背面ポケット　ショルダーベルト　ケーブル通し口　アンテナ通し口　ケーブル通し口　サイドプレート　保護クッション
ネームプレートホルダー　サイドポケット　ケーブル通し口　仕切り板　アクセサリーポケット　収納ポケット
マルチバッグ
LC-192
13,800円+税
オリジナルランタン
プレゼントキャンペーン
実施中！

アイコム株式会社　本 社　547-0003 大阪市平野区加美南1丁目1-32　www.icom.co.jp　高品質がテーマです。

この広告に掲載の無線機を使用するには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。またアマチュア無線以外の通信には使用できません。
●カタログをご希望の方は、ハガキに製品名、住所、氏名、年齢、コールサインをご記入の上、〒547-0003大阪市平野区加美南1-1-32アイコム（株）【電波タイムズカタログ】係まで。●商品の技術的なお問い合わせは（平日9:00〜17:00）フリーダイヤル：0120-156-313、携帯電話・PHS・公衆電話からは：06-6792-4949へ。その他のお問い合わせは最寄りの営業所まで。●アイコム株式会社、アイコム、ICOMロゴ、PBTはアイコム株式会社の登録商標です。●D-STARは一般社団法人日本アマチュア無線連盟の登録商標です。●Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、アイコム株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。●表示はハメコミ合成です。
JAIA